会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（茅ヶ崎グリーンハイツ自治会）
2　日時	平成 30 年 8 月 11 日（日）13：00～14：30
3　場所	茅ヶ崎グリーンハイツ　管理事務所
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、永井主任 （環境事業センター）安齋担当主査、門倉副主査 （茅ヶ崎グリーンハイツ自治会）参加人数：11 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●堤の最終処分場について、10 年以上前に見学したが、その時は満杯になるとは思えなかったが、今は何％ぐらいの埋め立て率なのか。使用を終えた後も費用はかかるか。 →平成 16 年から利用を始めて、およそ 44%の埋め立て率である。100%にならずとも、平成 45 年度までにその使用を終えるのが地元との約束である。その後も、水処理等に係る経費が発生する。あれだけ広大な敷地を確保することは、環境面から考えても、非常に難しいと考えている。 ●市から指定される有料のごみ袋は何リットルが販売されるか。 →藤沢市の場合は１リットル２円計算で販売している。袋のサイズについても、様々なサイズを用意させていただくことになるかと思う。 ●ごみ処理経費について、毎年 30 億かかるとのことが、他自治体との比較はどうか。 →ごみ処理経費については、収集運搬経費と中間処理経費と最終処分経費に分けられるが、茅ヶ崎市の特徴としては収集運搬にかかる経費が割合として高いといえる。人口割りにすると、県内のなかでは、真ん中ぐらいに位置づけられる。戸別収集を実施すると、収集運搬にかかる経費が増加することが見込まれる。現在、戸別収集の費用については、試算中である。 ●ごみの有料化で、指定ごみ袋を購入する方法以外になにかあるか。 →他の自治体の例をみると、指定したシールを買っていただき、ごみ袋に貼っていただく方法をとっている自治体もある。その方法は、割合としては少ない。 ●市が指定するごみ袋をわざわざ購入しにいかなくていい、仕組みを検討してほしい。また、現在スーパー等で購入する袋に比べて高いと思う。 →現在の生活にできるだけ影響がない仕組みを考えていきたいと思う。手数料については、ごみ処理経費の一部を皆様にご負担いただくといった考え方になる。 ●生ごみをディスポーザーするのは下水道に影響ないか。

	→現在のディスポーザーは公共下水に影響がないとのことである。 以上